



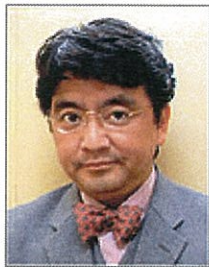
ルネサスが  
双葉

- 広告 特集:劇的に進化したTV会議システムで活発な情報交換を/日立ハイテク
- 広告 ビジネスを成功へとつなげるカラープリンタ。キャンペーン実施中! -NEC
- 広告 【マルコメ】月次決算処理が30日→5日に! 運用コストも20%削減 富士通
- 広告 特集「変化の時代の企業経営、変化に即応できるIT戦略」提供:日立製作所

[ビジネス: ネット時評\(日経デジタルコアより\) 過去記事](#)

[>> 過去記事一覧](#)

## この夏のリアリティー(中村 伊知哉)



野口みずきさん金メダルおめでとございました。この夏テレビで拝見しました。4年前、シドニーの際にはボストンにいて、アメリカは五輪をNBCがみな録画中継したため、高橋尚子さんをリアルタイムに見られませんでした。くやしい私は日本の親類に電話をかけ、テレビの前に受話器を置いてもらい、テレビ朝日の実況中継を国際電話でむさぼり聞きました。これって著作権法に違反してませんか。大丈夫ですか。通信役務利用放送法には違反してませんか。ちょっとマニ アックでしたでしょうか。

### とぎれとぎれの興奮

で、その国際電話、1時間以上聞いてましたが、衛星のせいなのか海底ケーブルのせいなのか交換機のせいなのか、音声のとぎれとぎれに聞こえました。私はそのとき学びました。人間、大切なことを、とぎれとぎれに聞くと、とても興奮するのであります。

さて、そしてこの夏、私は驚きました。野口みずきさんのレース。高橋尚子さんは今回コロラドにいてテレビが見られなかったから、日本のテレビの音声を電話で聞いていたんだそうで。「映像がなくても大興奮してしまいました」ってコメントが新聞に載ってました。

1936年のベルリン五輪、当時のひとたちは、前畑がんばれがんばれ前畑の実況中継を鉱石ラジオで聞いていたそうで。とぎれとぎれだったそうで。興奮したでしょうな。70年たって、デジタルで、ブロードバンドというわけですが、技術と人の間のリアリティーってのは進化してないのですな。

### タンジブルのリアリティー

そしてこの夏、「テレビゲームとデジタル科学展」が上野・国立科学博物館で開催されてました。ENIACからアルテア、アタリのPONG、スペースインベーダーやブロック崩しなど、ファミコン以後の爆発に至る努力の数々が並んでいました。個人的には、アップル1(ウォズニアックのサイン入り)とMITが開発したスペースウォーを初めて肉眼で見たのが収穫でございました。ずいぶん興奮するもんですな。

デジタルの技術で、映像はとことんリアルへ、3Dへと進みます。携帯ゲームへ、ネットワーク・ゲームへと進化します。という系譜を確認して歩いていたら、その奥に、Ping Pong Plusが置いてありました。ピンポン玉が卓球台に落ちた地点に波紋が美しく広がるという作品。MITメディアラボ石井裕教授の代表作です。センサーとプロジェクターがコンピュータ制御されたアートな卓球台と言え

ばわかりますでしょうか。よけいわからんでしょうか。

現実空間とコンピュータの結合は、ユビキタスという言葉でおなじみですが、石井さんはインターフェースの感覚をおしたて、タンジブル・メディアという概念を提唱しています。触れるメディア、とでも言えばよいでしょうか。ビットの感触、ビットの気配という新しいリアリティーを感じます。

そしてこの夏、お台場でNHK「デジスタ」が開いていた作品展は、そんなタンジブル・メディアが花盛りでした。音を詰めることができる缶詰、積み木細工で動画表現できるブロック…四角四面のスクリーンを超えて、ユビキタスな表現をする技術が身近になってきたようです。そうすると、コンテンツなるものも、ディスプレイ上にとどまらず、いろんな形を伴って世の中に出てくる。形が無限に広がるわけですね。

折しも隣で子ども向けのパソコン作曲教室やデジタル・ロボット作り教室が開かれていたので、強引に参加してみました。口笛ふいて新しいテクノロジーをいじって自己表現する。そんな世代が育っていきます。

#### メディア融合は進まないのか

タンジブルといえば、この夏、ホテルをてづかみしに行きました。インドネシアのマンガローブ。闇です。満天の星くず、月のない夜です。星はそれぞれ明るさも色も違い、またたくタイミングも違います。天から語りかけてきます。あ、流れた。その下、足もとにはおびただしい数のホテルが明滅しています。手を伸ばせば、指先に乗ってきます。この、それぞれ命をかけた1ビットの緑をみるのが好きです。

さて、ここには野口みずきさんが走る少し前に来まして、もうオリンピックは始まっていたのですが、北島康介選手も体操王国復活も見られませんでした。放映権料が高いからといってインドネシアのテレビ局は五輪中継しなかったんです。それはそれであつぱれなことでもありますな。

テレビというやつあ著作権囲い込みビジネスの親玉ですから致し方ありませぬが、オリンピックというやつあいつまで待ってもネット中継をしてくれないものですか。海外にいとちいとも日本選手見られないんですよ。仏フリーのADSLテレビやらオランダのKPNやらがネット中継を試したといいますが、国際オリンピック委員会(IOC)は競技映像のウェブ配信に関して視聴できる地域を制限するよう求めてますから、北京でもダメですかね。日本のコンソーシアムが支払ったアテネの放映権料は170億円という話ですが、そのコストを回収するネットビジネスってえのはまだ難しいですかね。

いまさらながらに通信と放送の融合って気になります。ブロードバンドだのデジタル放送だの実態が進んでいるにもかかわらず、なんだか今ひとつでしょ。

そこでこのたび、スタンフォード日本センターと国際IT財団の共同で、「メディア融合研究会」を開くことにしました。総務省と経済産業省の若手クラスに集ってもらい、マジな政策論をぶつけ合うものです。こんど実況でもいたしましょう。

-筆者紹介-

中村 伊知哉(なかむら いちや)  
スタンフォード日本センター研究所長

#### 略歴

1961年生まれ、京都市出身。京都大学経済学部卒。在学中はロックバンド“少年ナイフ”のディレクターなどを務める。84年郵政省入省。電気通信局、放送行政局、登別郵便局長を経て、通信政策局でマルチメディア政策、インターネット政策を推進。93年からパリに駐在し、95年に帰国後は官房総務課で規制緩和、省庁再編に従事。98年郵政省を退官し、(株)CSK特別顧問に就くとともに渡米、MITメディアラボ客員教授に就任。2002年9月から現職を兼務。経済産業研究所コンサルティングフェロー、(社)音楽制作者連盟顧問、NPO「CANVAS」副理事長を兼務。著書に『インターネット,自由を我等に』(アスキー出版局)、『デジタルのおもちゃ箱』(NTT出版)など。



#### NIKKEI NET

##### 新製品

- [パソコン関連](#)
- [ソフト&サービス](#)
- [自動車](#)
- [AV&通信](#)
- [生活](#)
- [ホビー&レジャー](#)

(C) 2006 Nihon Keizai Shimbun, Inc. All rights reserved.